

| 重点取組 | 令和 4 | 年度 | 自己評価結果 | 総括 |
|----------------------|-------|----|--|----|
| 確かな学力 | 具体的取組 | | ①②④ICT活用等、子どもが主体的に学習する環境を整備してきたことで、意欲をもって取り組む場面が増え、今後一層、子どもが何ができるようになってきたりといったことを意識できるように、子どもを主語とした授業づくりに取り組んでいきたい。③教科担当副制等を整備することで、横断的の職員で支援にあたることができ、横断的に教科・児童指導を展開できた。 | B |
| 豊かな心 | | | ①感染対策を講じたから、「ふれあい遊び」で中心に異学年活動に取り組んできた。高学年を中心とした子どもが、学校保健委員会を中心とした体力づくりや取組んだが、全校や学年で結果を反映した取組を積極的に行うことができた。④基本的な給食指導の徹底や保健学習をはじめとした取組を大切にしていた。 | A |
| 健やかな体 | | | ①年間を通して長縄跳び等に取り組む、体力の向上と運動を楽しむ態度を育てる。②子どもと教職員と保護者による学校保健委員会を開催する。③体力テストの結果等を活用し、課題を明確にし、日々の体育授業づくりや学校生活に活かす。④食に関する指導について関係職員が連携し、推進を図る。 | B |
| 地域連携 | | | ①学年の学習状況に応じて、学区をはじめ学区周辺の環境を学習材にしたり地域の人々を招いて支援をいただいたりしたが、子どもたちが地域とのつながりを意識できた。②子どもたちが地域とのつながりを意識できるようになったが、主体的に関わろうとしたり、教科領域の学習回上のつながりを意識した単元開発を展開したりといった取組は十分ではないので今後考えたい。 | B |
| いじめへの対応 | | | ①いじめ防止対策委員会をはじめ、児童指導の状況を定期的に全体で共有する機会をもつと同時に、必要に応じて支援会議を開催してきた。今年度、教科担任制により充実したことにより、多面的な児童理解、早期発見につながった。②いじめ防止の視点の基本的には、日々の肯定感づくりであることを再度確認し、どの子どもも自己肯定感をもつことができるよう指導方法・アイデアを一層共有していきたい。 | B |
| 人材育成・組織運営(働き方) | | | ①メンター・チーム等の学び合いの機会を大切にし、年代や経験を超えて切磋琢磨する研修を時間や場所にとらわれず設定し、教師力の向上に努める。②業務分掌等を効果的に進めていくために、一人で抱え込まず多様な経験や視点を尊重し様々な課題を「チーム」で取り組む。 | B |
| 特別支援教育 | | | ①生活・学習のユニバーサルデザイン化について研修を進め、どの子どもでもわかりやすい授業を目指す。②各教科や行事等を通じて、一級級と個別支援課の子どもたちの交流学習を進める。③港南台市の特別支援学校をはじめ通級指導教室といった学校外部機関との連携を深め、様々な相談や支援を行う。 | B |
| 児童指導 | | | ①児童支援専任を中心とし報告・連絡・相談を基本とした児童指導体制の確立と運用。②定期的にと子どもたちの情報交換を行い、日常的な児童理解を兼ねた職員間で共有を図る。③「二ハタカタ」を全職員で共有し、指導方針の共通理解を図る。④生活目標、保健目標、給食目標を関連付けて指導し、子どもが主体的に取り組めるよう支援する。 | B |
| 危機管理 | | | ①熱中症や新たな感染症への対応をはじめ、事故やけがの未然防止や不祥事防止といった危機管理研修を行い、リスク回避への知見と個々の意識を高める。②火災・防犯・天災発生を想定した訓練を実施し、想定される状況ををもとに危機に対処する行動を計画する。③管理体制を中心とした報告・連絡・相談を基本とした対応体制の確立と運用。 | B |
| チーム・二小 | | | ①学校運営協議会や地域学校協働本部を基本とした教職員、保護者、地域による持続可能な児童指導体制を構築する。②学校だより、ホームページ、学校説明会(報告会)等で学校運営協議会や地域学校協働本部による活動等を発信し、共通理解を図り一層の連携が深まるよう努める。 | B |
| フォロウ内 評価後の 気づき | | | 一中フォロウで教務主任室を回行した。今まで行っていた回数を確認できたので、小中の交流についてや校区児童生徒の実態について共有することができた。また、合同授業研究会を再開することができた。IoTを用いた授業を行い、連続性のある学習指導の在り方について検討した。本校では、IoT活用を重点研究で取り上げてきたが、児童によって操作など活用が深まってきた。しかし、感染症対策で学習場所以限定されてきたこともあり、一層の具体場面で活用の活用を図っていくことが課題である。 | |
| 学校関係者 評価 | | | ・授業や二小フェスティバルなどを参観した。どの学年の児童も落ち着いて学習に取り組んでいる。 ・IoTの活用を自分から調べたことや思ったことを互いに交流することによって驚いている様子を知り、大切なことだと思う。今後とも交流を深めていくことを願っている。 | |
| 中期取組 目標 振り返り | | | コロナ禍でも感染対策を講じつつ、ICT機器などを活用して、児童の学習活動を保障してきた。健康・コロナ意識など活動を工夫し、児童が自ら健康を補ったり高めたりのりしていくことに関心をもちたることができた。教科担当制や少人数学習の体制を整備してきたが、複数の教員が指導にあたることで、よりきめ細かな学習指導や児童指導につなげていくことができた。一方で、児童が主体的に活動できるような学習や各行事の展開、児童が安心して学習できる教室経営の一層の充実を図っていく必要がある。中でも特別支援教育への理解を深め、実践力を高め、自分や相手と大切にしている学習年終までにあっていく。人材育成・学年会や各分掌の学習回上の質的連携を大切にしていきたい。学区周辺の実践連携を大切にしていきたい。歴史を踏まえ、交流をすすめていく。 | |